

平塚の石仏めぐり

11、万田・出縄編



出縄観音堂 観音

万田・出縄の石仏

万田・出縄は^{ゆるぎくん}海綾郡に属し、明治 22 年（1889）同郡の山下・高根とともに山背村となりました。その後、同 42 年（1909）には、^{こなかわら}小中村と合併して旭村となり、昭和 29 年（1954）平塚市に合併しました。万田・出縄は大磯丘陵の一部に位置し、古くからの集落は台地の裾にあります。北から東にかけて水田が開けていましたが、宅地化が進んでいます。『新編相模國風土記稿』によると、天保年間の万田村の戸数は 60、出縄村の戸数は 42 でした。伝統的な集落区分は、万田は上万田、下万田、小向の三つ、出縄は上久保、下久保、額田、根岸の四つです。

万田には青面金剛の像容を持つ庚申塔が 2 基あります。下万田熊野神社の青面金剛は四臂で、上万田山王社の青面金剛は六臂です。道祖神の祭場は五輪塔や宝篋印塔の残欠だけを集めた所が多いのが特徴です。下万田薬師堂前は、たくさんの五輪塔が集められています。

出縄の蓮大寺には 6 基の題目塔があります。山門前の塔には「中郡結社」とあり、平塚市内だけでなく伊勢原や大磯の人の名前があり、信仰圏の広がりを示しています。根岸にある観音堂境内には天満宮があり、天神様の坐像が祀られています。また、双体像を石祠内に祀る根岸と上久保の道祖神や、蛇の石像を石祠内に納めた弁天池の弁才天など、市内では数少ない石造物があります。

石仏豆知識 8. 弁才天

弁才天は弁財天とも記し、略して弁天様とも言います。古代インドで河川神として尊崇されていた女神で、のちに仏教に取り入れられました。水を司ることから本来は農業神でしたが、音楽や智慧、福德の神に転じました。日本では福德神の性格が強くなり七福神の一員に加わりました。江の島の弁才天は音楽芸能の神、勝運守護の神、福德の神として幅広い階層の人々の信仰を集めています。また、鎌倉の銭洗弁天は金運の神として親しまれています。

水を司る神としての本来の信仰も根強く残っています。平塚市内にも各地に弁天池と呼ばれる池があります。かつては田畑の灌漑用水として利用され、日照りが続いても涸れないという伝承が残されています。丸島の駒形神社の弁天池には弁才天が祀られています。万田の巖島神社の弁天池は、簡易水道の水源にも利用され記念碑があります。下出縄バス停脇の弁天池には、弁才天石祠が祀られています。

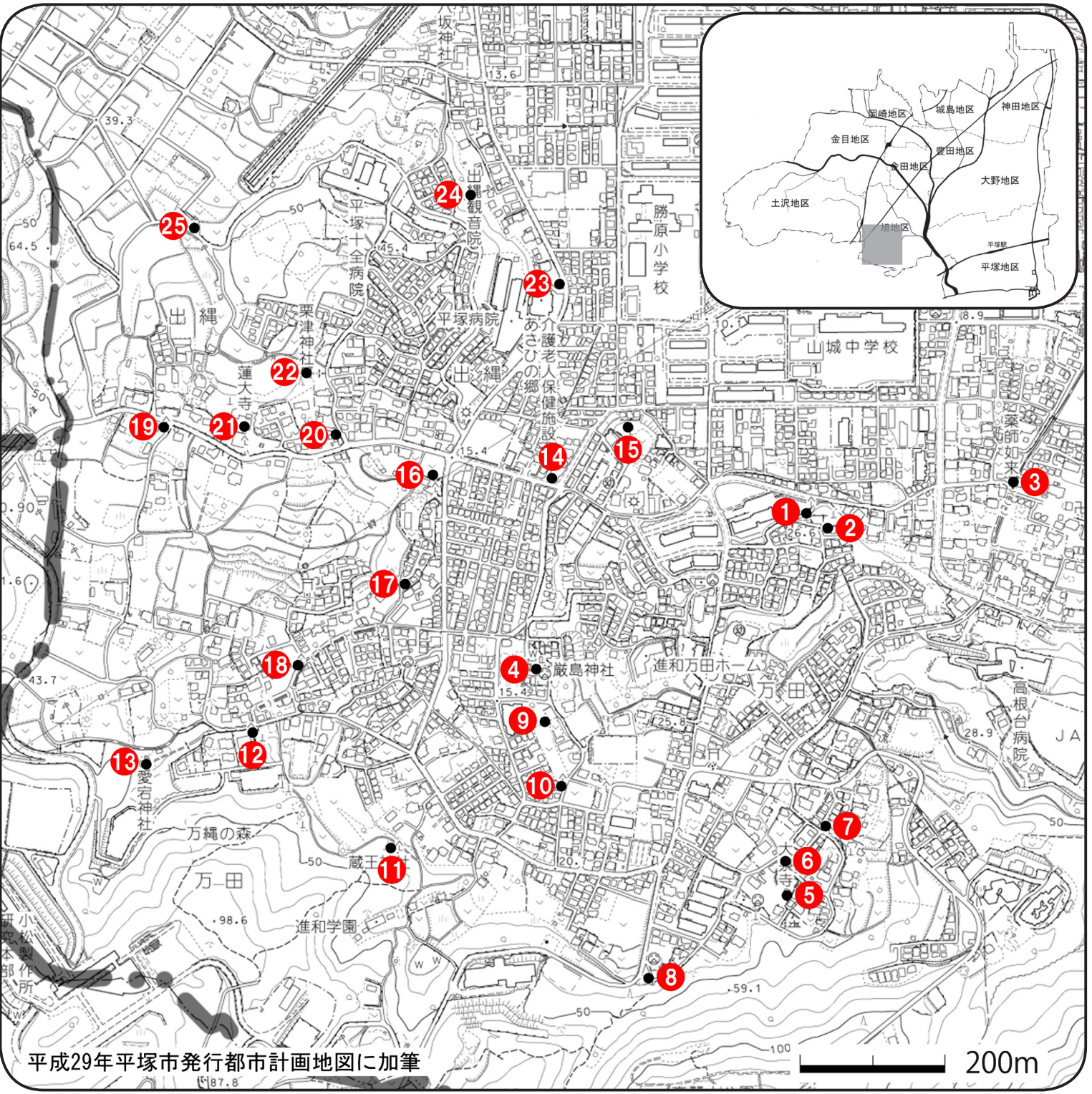
像容は 2 種類あります。一つは江の島の妙音弁才天に代表される琵琶などの楽器を抱えた像です。音楽芸能の上達を願う多くの人々の信仰を集めました。もう一つは八臂の像で弓矢、刀などを持ちます。頭には宇賀神（とぐろを巻いた蛇）があります。江の島の八臂弁才天は勝運守護の神様として武家から庶民にいたるまで広く信仰を集めました。

平塚市内の弁才天の石仏は、失われたものを含め 10 基記録されています。そのうち 8 基は石祠です。1 基は自然石の文字塔で土屋の妙円寺にあります。もう 1 基は大島の正福寺にある刻像塔です。弁才天の刻像は、一般的には八臂の坐像で、各種の武器を持ち、頭には宇賀神や鳥居があります。正福寺の坐像は、六臂の坐像で宝珠と宝剣を持っています。他の 4 手の持ち物は残念ですがはっきりしません。頭には宇賀神がありそうです。

市内の弁才天の石仏では、建立目的が伝承されているものはあまりありません。水の神として確認できるのは、10 基のうち出縄弁天池の 2 基の石祠だけです。

万田・出縄の石仏所在地と主な石仏

番号	名 称	住 所	主 な 石 仏
1	万田路傍	万田 343 西	観音・巡拝塔、馬頭観音
2	熊野神社	万田 368	庚申塔、石祠
3	薬師堂前	万田 423	道祖神
4	巖島神社	万田 529 南	道祖神
5	大泉寺	万田 612	地藏、観音
6	万田路傍	万田 614	道祖神
7	万田路傍	万田 654	山王、庚申塔
8	相武国造神社	万田 817 南	灯籠
9	万田路傍	万田 930 北	道祖神
10	万田路傍	万田 930	地藏、道祖神
11	蔵王神社	万田 1013	地藏、馬頭観音、阿弥陀如来、道祖神、庚申塔他
12	愛宕神社下路傍	万田 1120	地藏、三尊塔、道祖神
13	愛宕神社	万田 1131	名号塔・灯籠、狛犬他



平成29年平塚市発行都市計画地図に加筆

番号	名 称	住 所	主 な 石 仏
14	出縄路傍	出縄 168	道祖神
15	神明社	出縄 180	天照皇大神
16	弁天池上	出縄 223 東	弁才天
17	出縄路傍	出縄 235	道祖神
18	出縄路傍	出縄 293	道祖神
19	出縄路傍	出縄 398 東	道祖神
20	出縄路傍	出縄 432	馬頭観音
21	蓮大寺	出縄 433	題目塔多数、五輪塔
22	栗津神社	出縄 436	狛犬、手水石他
23	出縄路傍	出縄 519	道祖神
24	出縄観音堂	出縄 528	廻国塔、観音多数、地藏、馬頭観音、天神他
25	新幹線出縄隧道上	出縄 637	稲荷

※ 当ガイドマップに記載されている石仏の基数は令和 3 年集計時点のものです。

石仏めぐりを行う場合の心掛け
石仏は、古来より多くの人々がさまざまな願いをこめて手を合わせ祈ってきたものです。今でも信仰の対象とされているものも数多くありますので、見学に当たっては、敬いの心を持って接しましょう。
また、お寺や神社など石仏の管理者がいらっしゃる場合は、石仏を見学する旨一声かけてから見学しましょう。

平塚の石仏めぐり（11. 万田・出縄編）
発行日：令和 4 年 4 月
編 集：石仏を調べる会
発 行：平塚市博物館
住 所：神奈川県平塚市浅間町 12-41
電 話：0463-33-5111

万田路傍の観音巡拝塔 (地図番号①)

万田から出縄に通じる古くから貝殻坂と呼ばれている道路沿いに小屋があり、その中には聖観音立像が納められています。

台石には風化して見づらいが15名の名前が刻まれていて、それぞれ「□□母、□□内」とあり、また、塔右面に「秩父三十四ヶ所供養」とあるので女性たちが観音霊場巡りをした証として建立したものと思われます。

塔左面には「安永四(1775)乙未霜月」と造立年も銘記されています。



観音巡拝塔(安永4年)

熊野神社の庚申塔 (地図番号②)

この庚申塔は、万田の貝殻坂遺跡の丘の上にあります。万田には青面金剛の像容を持つ庚申塔が2基ありますが、ここ熊野神社の庚申塔の特徴は、四臂の青面金剛で、邪鬼を踏み、左右に二鶏、その下に三猿を配し、頭頂部にはあまり例を見ない梵字^{キリーク}「𑖀」が刻まれ、阿弥陀信仰と庚申信仰が融合したものです。

台座部には「享保八癸卯天((1723)十二月吉日)「万田村講中」の銘があります。



庚申塔(享保8年)

薬師堂前の道祖神 (地図番号③)

下万田薬師堂の傍らには、五輪塔群が道祖神として祀られています。高根の殿ノ上付近の畑から出土したものと、貝塚団地を造成する際に出土したものです。殿ノ上は中世の古戦場だといわれます。

小正月には道祖神に集まった注連飾りで、子供たちも参加し、近隣の敷地を使って、どんど焼きが行なわれています。なお薬師堂は相模薬師二十一霊場の十四番札所で薬師如来他が祀られています。



五輪塔道祖神群

万田路傍の道祖神 (地図番号⑩)

地藏坐像などがあり「オモチのお地藏さん」と呼んでお祀りしています。毎月1日と15日、お地藏さんの日の8月23・24日には、ご飯を供えお線香をあげています。正月三が日には焼き餅を供え、神上がりの4日にはお汁粉をあげています。

また、地図⑨には、宝篋印塔の残欠があり、「ウラのお地藏さん」と呼んで、同じようにお祀りしています。どちらも、畑から出土したそうです。



地藏坐像他(年代不詳)

万田路傍の石仏 (地図番号⑦)

湘南平への登山口から入って程近い右手に入った坂の途中に、庚申塔と2基の石祠(1基は笠のみ)が並んでいます。

山王石祠 通常何の神を祀っていたのかわからない石祠が半数を占めますが、この石祠には、祠内に棟札(木札)が現存しており、「山王神社ノ碑ヲ改修」とあり、山王神社の石祠であることがわかります。元は山の上にあり、万田の農家30軒で祀っていたそうです。

石祠右面に「昭和十六年(1941)一月再調」と造立年が刻まれています。

庚申塔 この庚申塔には、「元禄五壬申年(1692)十一月十五日万田村中」の銘があり、万田で最古の石仏です。

舟形光背に浮刻した1mを超えるもので、堂々たる風格があり、安山岩で石質も良く、経年変化があまり感じられません。青面金剛の刻像は尖頭、六臂で、両手を合掌し、持物は下方手に弓・矢を執り、上方手には輪宝・三叉鉾を持ち、足下に邪鬼を踏んでいます。よく見ると尖頭部にドクロが絡んでおり、三猿は腕・脚で菱形をしています。



山王石祠(昭和16年)



庚申塔(元禄5年)

蔵王神社の庚申塔 (地図番号⑪)

社殿の左にひっそりと建つ享保14年(1729)造立の小ぶりな庚申塔です。銘文は「奉庚申供養如意満足…」と刻まれ、上には青面金剛の種子「𑖀」があります。銘文の下には三猿があり、向かって左から不見、不聞、不言と並んでいます。特徴的なのはその姿です。不見猿は体を左に向け、不聞猿と背中合わせになっています。不聞猿は不言猿と体を向き合わせています。そして、顔は三猿ともしっかりと正面を向いています。



庚申塔(享保14年)

愛宕神社下路傍の三尊塔 (地図番号⑫)

愛宕神社下の路傍に地藏坐像や道祖神とともに三尊塔が祀られています。板碑型で上部に二本の線が刻まれています。紀年銘はなく造立年代は特定できませんが、中世の石造物の可能性あります。

銘文は三文字の種子^{キリーク}です。中央は阿弥陀如来を示す𑖀ですが、残りの梵字は見慣れない字体をしています。おそらく異体の梵字で、阿弥陀三尊の聖観音の𑖀と勢至菩薩の𑖀を表しているものと思われます。



三尊塔(年代不詳)

弁天池上の弁才天 (地図番号⑬)

下出縄バス停横に広さ30坪ほどの池があります。かつては近郊の水田の灌漑水として使用され、水神池とも呼ばれていた弁天池です。

池の西側の傾斜地に2基の石祠があり弁才天が祀られています。向かって左の流造石祠には「文政六末年(1823)」の銘があり、祠の中には弁才天の使いとされる蛇の石像が納められています。市内に弁才天の石造物は10基あり、その8割が石祠です。



弁才天(文政6年)

蓮大寺の石仏 (地図番号⑲)

蓮大寺は室町時代天文5年(1536)創建の日蓮宗の古刹で、身延山久遠寺の末寺です。開基は須藤惣左衛門(小田原北条氏家臣)、九遠寺十三世日伝上人の開山と伝えられています。

題目塔 山門手前の右手に明治32年(1892)に建立された2.2mのどっしりとした題目塔があります。正面には「南無妙法蓮華經」と朱に塗られており、台石には「中郡結社」と彫られています。戦前は平塚市域の各地区と伊勢原、大磯など26ヶ町村の檀家が中郡結社の講中をつくっていました。世話人など約100人の名前が彫られています。

また境内には、享保16年(1731)に建立された宗祖日蓮聖人の450遠忌を皮切りに、50年ごとの節目に建てられた題目塔が数多くあります。

書体は日蓮聖人独特のもので「髭題目」と呼ばれ、筆の先の先まで力強く、文字ひとつひとつに躍動感があります。



題目塔(明治32年)



450遠忌題目塔(享保16年)

五輪塔 山門を入りすぐ右手に3基の五輪塔が並んでいます。いずれも江戸時代初期に作られたもので、須藤家一門の供養塔です。

五輪にはそれぞれ上から日蓮宗の特徴である「妙・法・連・華・經」の文字が一字づつ刻まれている、高さが2mを超える重厚な五輪塔です。



五輪塔(右より寛永2年(1625)、年代不詳、慶長15年(1610))

出縄路傍の道祖神 (地図番号⑳)

根岸の天明4年(1784)造立の道祖神です。石祠の中には双体道祖神が祀られています。傷みが進んでいますが、微笑みを浮かべていることがわかります。

この型の道祖神は市内に5基あります。出縄に2基と河内に1基、豊田宮下に2基です。出縄のもう1基は上久保の道祖神(地図⑲)で、平成3年(1991)に建立されたもので、頬を寄せ合った双体神が祀られています。



道祖神(天明4年)

出縄観音堂の石仏群 (地図番号㉔)

出縄観音堂は相模新西国三十三観音霊場23番札所になっています。根坂間の宝珠院持ちで、以前は根坂間の叶谷^{かのや}にありましたが、その後この地に移されました。本堂の左手奥には天満宮があります。

廻国塔 境内入口の階段下と上にあります。階段下の廻国塔は剥落がすすみ、銘文はほとんど読めません。階段上の廻国塔は、上部が欠けていますが、正面に「□十六部供□」、左面に「□十三はん 叶谷山聖観世□」、右面に「寛政二(1790)」とあるのが読みとれます。

観音群 境内の右手には、6基の観音像が祀られています。手前から如意輪観音半跏像、聖観音立像、馬頭観音立像、十一面観音立像、観音立像(六臂・種別不明)、聖観音立像の順になっています。5基目の観音像には、「元禄七戌天(1694)」「十一月吉日」と紀年銘がありますが、ほかの5基には銘文がありません。像容や大きさからみて同時期に造立された可能性があります。



観音群(1基(元禄7年)を除いて年代不詳)

天神 観音堂の左手奥には天満宮の祠があり、天神様が祀られています。高さ29cmの坐像で、かつては全体に彩色されていた形跡があります。菅原道真を祀った神様で、学問の神として知られています。1月25日の初天神には周辺の子どもたちが書き初めを持って集り、勉学の向上を祈願していたそうです。



天神坐像(年代不詳)